

# 岡崎むかし館

## か もり かい もの かい 籠



岡崎むかし館 蔵

みなさんのお家では、毎日の食事の材料をどこへ買いに行きますか？

多くの方が、スーパーマーケットやコンビニエンスストアを利用しているのではないのでしょうか。スーパーマーケットが広まる前は、野さいは八百屋、魚は魚屋、豆腐は豆腐屋と品物ごとに別々のお店で売っていました。そして、みんなが買い物籠を持って買い物へ行っていました。竹などの自然素材で編みこまれた買い物籠は古くから使われていました。しかし、石油を材料とするビニール製品が多く作られるようになった昭和30年代頃には、買い物籠も竹からビニールで包まれた針金製の籠が多く使われるようになります。針金製の籠は形が安定しているため、そのまま自転車の荷台にしばりつけることもできました。また、デザイン的にもカラフルなビニールが使用され、時代に合った新たなデザインの籠となりました。

そんな針金製の買い物籠も、買い物をするとビニール製のレジ袋がもらえるスーパーマーケットの普及に合わせて、だいに使われなくなりました。スーパーマーケットは、セルフサービス方式で食品や日用品などのいろいろな品物を大量に安く販売する店として、1930年代にアメリカで始まり、日本では1953年に東京青山に紀ノ国屋が開店したのが始まりと言われます。

しかし現在では、環境や資源の問題から、買い物袋を持参するエコバッグが常識となりつつあります。

このように、生活道具のひとつである買い物籠の歴史を見ても、いろんな時代の様子がわかります。